

岡山市都心部における放置自転車の現状と対策の方向性

株式会社 エイトコンサルタント 正会員 ○安井孝規
 株式会社 エイトコンサルタント 正会員 辻 和秀
 新協技術コンサルタント株式会社 正会員 栗井睦夫

1. はじめに

岡山市は瀬戸内海気候に属し、温暖で晴天の多い気象条件と平野部の広い平坦な地形条件から、地方都市の中でも有数の自転車利用都市である¹⁾。そして、都心部の JR 岡山駅周辺や表町街周辺では、放置自転車問題が年々深刻化しており、自動車や歩行者、高齢者など交通弱者等の通行空間を阻害するとともに、交通事故の誘発の原因となるなど、交通安全上の問題となっている。²⁾ こうした状況に対し、岡山市では、放置防止の啓発活動や自転車等駐車場の整備を進めるとともに、昭和 63 年に「岡山市自転車放置防止条例」を制定し、放置自転車の撤去や、大型店舗に対する自転車駐車場設置の義務付けなどの対策に取り組んできた。

しかし、依然として市内の各所で放置自転車が見られ、都心部の JR 岡山駅周辺や表町商店街周辺では、放置自転車問題が深刻化しており、放置実態の把握と有効な対策が求められている。

本研究では、以上をふまえて、岡山市都心部における放置自転車の現状を把握するとともに、自転車の放置や危険走行を行わない正しい利用方法の促進に向けた対策の方向性を見出すものである。

2. 岡山市都心部の放置自転車の現状

①放置自転車の状況

岡山市都心部には、図 1 に示すように「JR 岡山駅周辺」と「表町周辺」の二つの都心核がある。²⁾ このうち岡山駅西口および東口周辺（写真 1）では、放置禁止区域に指定されているにもかかわらず、駅前広場内や主要大型店舗前の歩道上等に、岡山駅西口で約 1,400 台、東口で約 5,100 台の放置自転車が溢れている。

また、商業施設が集積する表町周辺（写真 2）では約 4,500 台もの放置自転車が溢れており、歩道上での安全な通行を著しく阻害している。

②自転車等駐車場の利用状況

自転車等駐車場の利用状況を見てみると、西口地下（2,350 台収容）では、概ね 2,700 台/日（利用率 115%）



図 1 岡山市都心部の放置自転車台数(台/ピーク時)(H13 年 2 月調査)



写真 1 岡山駅周辺の放置自転車



写真 2 表町周辺の放置自転車

の利用があるものの、東口地下では、3,553 台の全収容台数に対して 1,600 台/日（利用率 45%）しか使用されていない。表町周辺では、放置自転車禁止区域の指定が行われておらず、自転車等駐車場も 2 箇所・172 台分の整備にとどまっており、人通りの少ない商店街の東側の通りに整備されているものについては（96 台収容）空きも見られ、既存の自転車等駐車場が十分活用されていないのが現状である。（写真 3）



写真 3 表町周辺自転車等駐車場

③自転車利用者における駐輪意識

岡山市市民意識調査(平成 12 年)によると、自転車等の放置理由としては、「短時間なのでわざわざとめる必要はないと思ったから」「有料でとめたくない」「大勢放置しているので構わないと思った」などの理由が多い。

＜岡山市市民意識調査(平成12年)＞

■自転車等を放置した理由(N=571)

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ①「付近に自転車等駐車場がない」 | 49% |
| ②「短時間なのでわざわざとめる必要はないと思ったから」 | 34% |
| ③「自転車等駐車場がどこにあるのかわからなかったから」 | 26% |
| ④「自転車等駐車場に有料でとめられなかったから」 | 25% |

■自転車等放置時の用事(N=571)

- | | |
|---------------|-----|
| ①「買い物」 | 83% |
| ②「他の交通機関との乗換」 | 26% |
| ③「遊びに来て」 | 25% |
| ④「仕事」 | 12% |

3. 岡山市都心部の放置自転車解消における課題

これまでの現状の把握により、岡山市都心部の自転車等駐車に関する課題としては以下が挙げられる。

①既存自転車等駐車場の適正な利用

岡山駅周辺では約 7,700 台が収容できる自転車等駐車場が整備されているが、既存の自転車等駐車場が適正に利用されていないため空き状況が見られ、既存自転車等駐車場の適正な利用が課題と言える。

②自転車等駐車場の確保

岡山市都心部では、全体で概ね 11,000 台もの放置自転車が溢れている。これに対し、既に両地区で整備されている自転車等駐車場は概ね 7,900 台であり、これら全てが適正に利用されたとしても、両地区における自転車等駐車場は概ね 3,100 台の不足となり、その確保が課題と言える。

③自転車利用者の駐輪意識の改善

自転車は手軽で便利な乗り物の反面、自転車の放置は、「短時間なのでわざわざ自転車等駐車場にとめる必要はないと思った」などの「利用者の意識」に基づくものも多く、こうした駐輪意識の改善が課題と言える。

4. 放置自転車解消に向けた対策の方向性

これまで放置自転車問題は、行政主導による自転車等駐車場の整備、啓発活動など諸々の対策が講じられてきたが、依然として放置自転車は溢れ、抜本的な解決には至っていない。今後は誰が受益者か、何が原因なのかという「受益者負担」「原因者負担」の考え方にに基づき、各々の責任を明確にし、適切な役割分担による自転車等駐車場の整備が求められる。

①官民の適切な役割分担による自転車等駐車場整備

自転車等駐車場を整備・配置するに当たって、交通政策上、どのような駐車場が望まれるのかなどを十分配慮しながら、既存の自転車等駐車場が適正に利用されるような案内や誘導等を強化するとともに、面的用地の確保難が整備推進の障壁となっていることなども踏まえた駐車場の整備・配置を行っていく必要がある。

■行政の役割

- ・公共的自転車等駐車場の整備
- ・民間による自転車等駐車場整備への支援

■民間の役割

- ・従業員や来訪者のための自転車等駐車場の整備
- ・来訪者等の自転車等駐車場利用に対する原因者としての料金的なサービスの提供

②正しい自転車利用の促進に向けた意識啓発の環境づくり

自転車等駐車場の利用の促進に向けて、地域関係者との連携による広報・PR活動の徹底や、放置自転車の撤去を徹底し、放置ができないような環境整備を進めるとともに、自転車利用者に対し、自転車等駐車場整備の原因者であり、駐車することによる受益者であることに基づく自転車等駐車場利用に対する料金の適切な負担の必要性に対する認識と理解を求めるなど、正しい自転車利用の促進に向けた意識啓発の環境づくりを、道路管理者・公共交通事業者・教育機関など関係団体の協力のもと進める必要がある。

■地域関係者との連携による取り組みの推進

■放置自転車の撤去等規制強化

■利用者による駐輪料金に対する適正な負担

5. まとめ

岡山市都心部における放置自転車問題の解決に向けて、先に示した対策の方向性を実現するためには、地元住民・関係者・自転車利用者の合意形成が必要となる。

そのためにも、都心での面的用地の確保難なども踏まえた道路空間などの有効活用による駐輪スペースの確保の可能性など各種対策の具現化に向けて、地区を限定して試行的な実験を行ない、調整がつけば実施に移し、調整が困難な場合は再検討していくなど、段階的な検証・対応により、対策の実効性を高めていくことが望まれる。

最後に、本報告の執筆にあたり多大なご指導を賜った岡山大学環境理工学部阿部宏史教授に謝意を表します。また、調査に当たって多大なご協力をいただいた岡山市役所の関係各位に謝意を表します。

＜参考文献＞

- 1) 阿部・栗井・山根・藤井：地方都市における自転車利用環境の整備が通勤交通に及ぼす影響、土木計画学研究・論文集、No. 17、pp. 789-795、土木学会、2000 年。
- 2) 安井・栗井・辻・阿部：岡山市都心部における放置自転車の現状と自転車利用者の駐輪意識、土木計画学研究講演集、pp161-164、土木学会、2001 年。